

## 35 「歩きたいまち・狛江」 —まちづくりに関する継続的な調査活動—

まちづくり



受賞者：まちづくり市民会議

推薦者：林 健彦 さん

### 【講評】

「狛江・まちづくり市民会議」は「歩きたいまち」をコンセプトに、道路という視点から、環境・福祉・防災といった、現在特に注目されているテーマに取り組んでいる市民団体です。市民会議では、ケーススタディとして、現地調査をはじめ、地域住民へのアンケートを行い地域の声を検証するなど、地域の実態をふまえながら「歩きたいまち」の実現に向けて、様々な側面から調査・提言を行っています。狛江市まちづくり条例が目指す、市民等と協働したまちづくりの先駆けとして現在も活動を続けており、市民の目線で提言を行う団体として高く評価できます。

### 【推薦コメント】

私たちは、「狛江・まちづくり市民会議」は平成19年3月まで、まちづくり条例の「テーマ型まちづくり」に応募してきました。

私たちは、高齢者が増えていく高齢社会、地球温暖化など環境に配慮した社会の現状を踏まえ、テーマとして「歩きたいまち・狛江」を掲げ、毎年実態調査・提言を行ってきました。すなわち、車優先の現状から、人や自転車の視点に立った、車と共存するまちづくり、市内に残された農地・屋敷林など環境や景観を生かしたまちづくり、防災に配慮したまちづくりです。

各年度の調査・報告書の内容は以下のとおりです。  
2004年度：市内全体の基本的方向を現地ウォッチング等をもとにまとめた。

2005年度：上和泉通り、八幡通りについて交通量調査を中心にまとめた。これを機に日大社会交通学科研究室と協働。上和泉通りの一部について提案。

2006年度：八幡通りについて地元住民アンケート調査を行い、結果をまとめた。

2007年度：八幡通りについて、地元住民と一緒に「歩きたいまち」まちづくり提案を行うべくワークショップの立ち上げをめざしている。

私たちは「自分のまちは自らの手で考え、つくっていく」一都市計画マスタープランやまちづくり条例がいうところの「協働型まちづくり」に通じると思います。一をモットーに、毎年継続して、コツコツと調査を行っています。まちウォッチングなどいつも楽しみで、市内はよく知っているつもりでもそのつど何らかの発見があります。

市民の自主的なまちづくりの輪が少しずつひろがることを願ってやみません。